【教員寄稿】

ニウタ・ジアス
（Nilta dos Santos Dias Shimizu）

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。ポルトガル語学科へようこそ！

ブラジルの Minas Gerais 州の Sete Lagoas 市に生まれ、州都の Belo Horizonte 市で育ちました、Nilta dos Santos Dias Shimizu と申します。多くの日本人は「清水」という名字を見ると日系ブラジル人だと思うでしょう、そして名前が長すぎると思うこともあるでしょう。しかし私は日系人ではありません。そして、ブラジル人の名前は一般的に、次のように長いのです:名前 「Nilta」、そして母親の名字「dos Santos」と父親の名字「Dias」の二つです。また、女性の場合は結婚したら夫の名字を付け加えることが普通です。私の夫は日系二世で、名字は「清水」です。その理由で私の名前に「清水」が加わりました。日本で初めて自分の名前は本当に長いと感じました。特に何かの手続きをするときに、いつも氏名を書くスペースが足りないです。その時、小さく書いたり、一つの名字と名前だけ書いたりします。学生さんは先生方を呼ぶ時に名字を使っていますが、同じように私を呼ぼうとしたら『ドス・サントス・ジアス・清水先生』と言わなければならないので、大変です。そのため学内では「Dias Nilta」という名前を使っています。

私は子どもの頃から日本に関心を持っています。「いつか日本で勉強したい、ブラジルと日本をつなぐ架け橋になりたい」という夢を持っていました。自分の大事な夢を叶えるために一生懸命勉強しました。１９９７年６月に海外技術研修生として初めて日本に来ました。私の専攻は教育で、山梨県教育庁義務教育課で１０ヶ月間研修しました。その期間中に初めて外国から在日した子どもたちの教育問題を自分の肌で感じることができました。状況を見ると何よりも日本の学校への適応の問題と言葉の壁の問題が大

きかったです。そこで少しでも役立つために私はボランティアとして子どもたちと授業に参加して、その後、特別な教室でポルトガル語とスペイン語で授業の内容をもう一度説明したり、日本の学校生活のさまざまなことを教えました。１０ヶ月間はあっという間に過ぎて、１９９８年３月に帰国しました。日本で出会った子どもたちのことを忘れられず、１９９９年に日本文部科学省の留学生として再び日本に来ました。山梨大学で教員研修と修士課程（教育学）を両立しながら小・中学校で外国から在日した子どものためのボランティア活動を続けました。２００３年に山梨大学での勉強を終えて、栃木県の真岡市でのブラジル人学校でコーディネーターとして１年間勤めました。そして２００４年から２００７年まで群馬県太田市内の公立小・中学校で外国児童教育指導助手として勤めました。２００６年に太田市内の公立学校の仕事と同時に上智大学のポルトガル語学科で非常勤講師として勤め、今年助教になりました。現在１年生から４年生までの科目を担当しています。また在日ブラジル人について研究しています、テーマは「在日ブラジル人の子どもの教育」です。これからきっとそのテーマについて話す機会がたくさんあると思います。

ポルトガル語学科では皆さんが世界観を広げる多くのチャンスがあると思います。ポルトガル語は世界の５大陸で約２.４４億人の人々によって話されています。将来的にポルトガル語圏の国と関係している職場で働くことにも非常に役に立つはずです。それだけで、ポルトガル語を学ぶことに価値があると思います。また言語を学ぶだけではなく、本の上での言葉を勉強しながらそれぞれのポルトガル語圏の国の歴史、文化、生活習慣などを同時に勉強すると、その言語とその言語を話す人々のことを深く理解できると思います。そのためにポルトガル語の世界に入って、たくさんの友だちを作って、大学生活を楽しみながら勉強を頑張って、たくさんのことを学んでください。